

# 経営比較分析表（令和元年度決算）

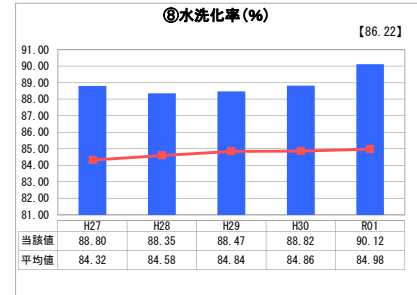
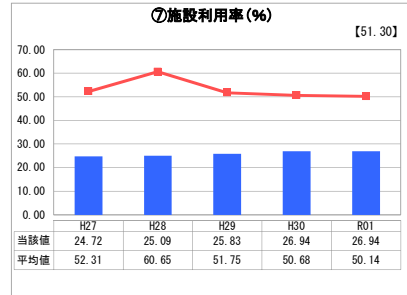
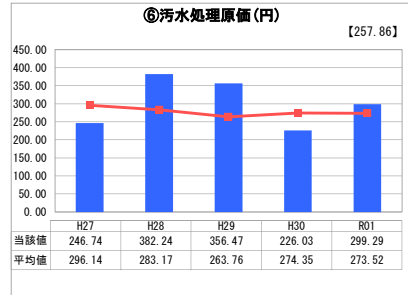
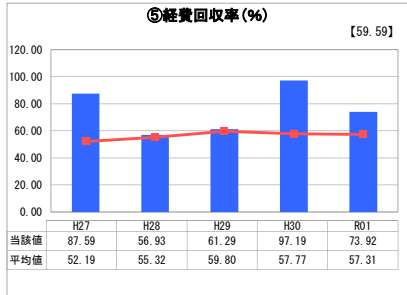
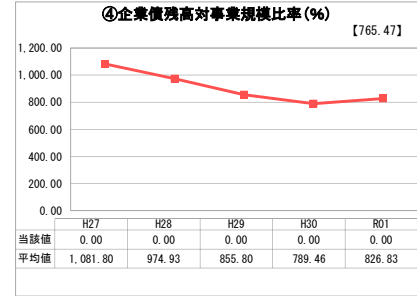
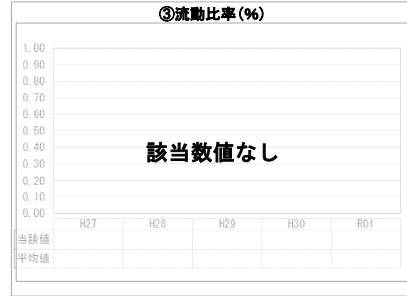
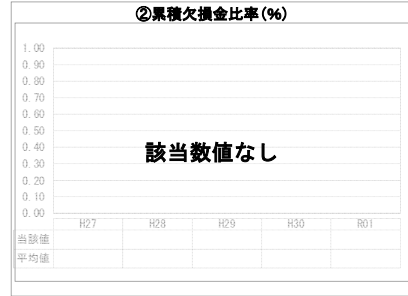
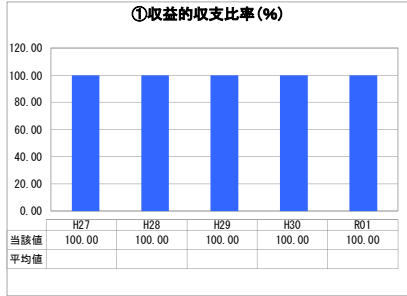
北海道 新十津川町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	農業集落排水	F2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	5.28	73.59	3,916

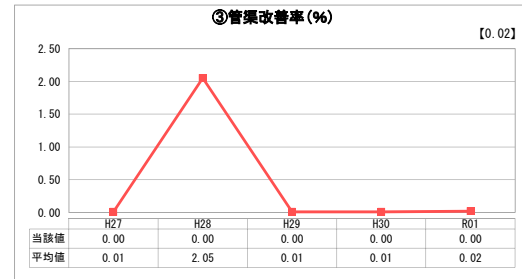
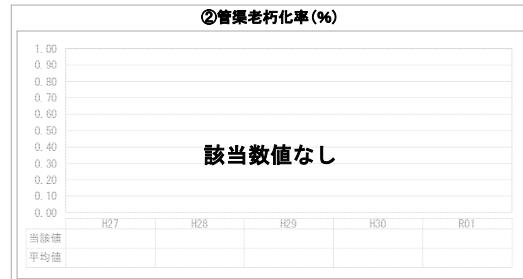
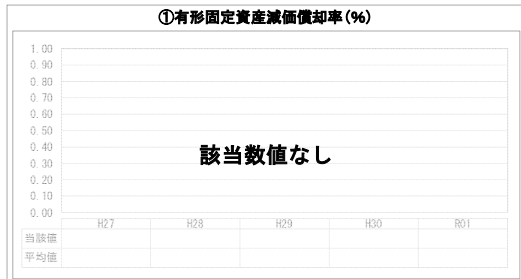
人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
6,532	495.47	13.18
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km <sup>2</sup> )	処理区域内人口密度(人/km <sup>2</sup> )
344	0.37	929.73

グラフ凡例		
■	当該団体値(当該値)	
—	類似団体平均値(平均値)	
【	令和元年度全国平均	

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

収益的収支比率は高い数値を示している。企業債残高対事業規模比率は低く地方債の残高も公費負担のみとなっている。経費回収率は、年度によって差があるが類似団体平均値よりも高い数値を示している。汚水処理原価も年度によって差があるが、類似団体平均値と同程度の数値となっている。施設利用率は、類似団体平均値より低い数値となっており、施設の能力に対して余裕がある状況である。水洗化率は供用開始後、大和地区は21年、花月地区は18年経過しており、類似団体平均値より高い数値となっている。

### 2. 老朽化の状況について

供用開始から大和地区は21年、花月地区は18年が経過している。処理場の機械・電気設備は順次耐用年数を迎えることから平成29年度に最適整備構想を策定し、令和2年度から機能強化事業を実施する予定である。管路施設については耐用年数を迎えておらず問題はない状況である。管渠改善率は、管路施設の耐用年数を迎えていない事及び地区内の管路整備が完了している事から低い数値となっている。

## 全体総括

区域内の管路整備は完了し、水洗化率も高く、使用料収入も適度に徴収している。また汚水処理原価も低く抑えられており、経営状況は安定していると考察する。ただし、一部施設が耐用年数を迎え、更新の時期となっている事から費用負担が増えている。今後、管路の更新時期となった場合には更なる負担が嵩むため財源の確保が肝要となってくる。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。